

留学報告書 II (2025 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾普通部 2 年
留学先校名	Eaglebrook School
留学期間	2025 年 9 月から 2026 年 5 月末まで

留学を振り返って

留学に行く前に期待していたこと、心配していたことはありましたか。実際に行ってどのように変わりましたか。

Eaglebrook School での学びは、想像を遥かに超えた経験となりました。自ら動くことで先生方や仲間が応援してくださり、授業や課外活動、寮生活、日常会話の中で、関心や可能性が次々と広がっていきましました。

こうした経験の集大成として、年度末に行われた Spring Academic Awards Ceremony という、年間を通じて優秀な生徒を表彰するセレモニーでは、Innovation Award を受賞し、トロフィーをいただきました。この賞は、学校生活において創造力や課題解決力、主体的にアイデアを形にする姿勢、ロボティクスでの成果を評価していただいたと受け止めています。

以下では、Eaglebrook School の良かった点について述べたいと思います。

1: 挑戦を応援する環境

Eaglebrook School には、生徒が自分の関心を主体的に行動に移せる土壌がありました。自ら動く生徒を応援してくれる環境があるからこそ、失敗を恐れずに挑戦することができる。そして、自身の行動次第で、学校から与えられた機会以上に、自分の可能性を大きく広げていける場だと感じました。

2: 多くの実践の機会

Eaglebrook School では、自分の学びを発表し、大会で試す機会が多くありました。Robotics で州大会決勝まで進み、EBS Talks では自らエンタリーし、スピーカーとして登壇。Model United Nation (模擬国連) ではソマリア代表として参加しました。また最終学年である 9 年生は全員、自分の決めたテーマについて全校生徒の前で発表しました。学びを人前で伝えたり、外の場で試せたりする点が大きな魅力でした。

3: 思考を深める寮生活

移動時間による負担が少なく、1 日の中で自分の知識を深める時間を多く持つことができました。デジタル機器の使用時間が限られていたため、僕は限られた時間の中でインターネットやポッドキャストなどを通じて情報に触れたり、調べたりしました。そして、インターネットが使えない時間には、得た情報を自分の中で整理し、他の知識とつなげて考えるようになりました。

今振り返ると、この時間は僕の思考に大きな影響を与えた時間だったと思います。自分で考える時間があることで、複眼的な視点を持ち、物事を多面的に考える力につながったと感じます。また、自分が今何に関心を持っているのかを見つめる時間にもなりました。

4: 新しい経験ができるキャンパス

Eaglebrook School は東京ドーム約 74 個分の広大なキャンパスであり、山や森に囲まれた環境です。日本の中学校では日常的に経験しにくいスノーボード、スカッシュ、水球、ラクロスなどにも挑戦できました。経験の有無に関係なく、誰でも新しいスポーツや活動にチャレンジできる雰囲気があり、毎学期、自分の世界が広がっていく感覚がありました。

5: 少人数教育とアットホームな環境

Eaglebrook School の良さの一つは、少人数で先生との距離が近いことです。1 クラス 7 人程度で、授業中だけでなくランチや日常の雑談の中でも先生と話す機会が多くありました。昼食中に歴史について話したことをきっかけに、ある先生から、第二次世界大戦中の日系アメリカ人の歴史や歩みを扱った『Facing the Mountain』と写真集『Go for Broke』を貸していただきました。授業外の会話からも、自分が知らなかった歴史や新しい視点に出会う事ができました。

6: 将来を考える出会い

Hilly Chase は、卒業生や特別な経験を持つ方々の講話を定期的に聞く行事で、将来の自分について考える貴重な機会となりました。パラリンピック選手として挑戦を続けた Chris Waddell さんのお話で

は、困難に直面した時に、自分をどう定義するかによって、その後の生き方が変わるという考え方を学びました。また、James Robinson さんのお話では、障害のある方を特別視しすぎるのではなく、一人の人として向き合う大切さを考えるきっかけになりました。

クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

Eaglebrook School では、授業以外にも多様な課外活動が用意されていました。スポーツは毎学期選択制。課外活動は寮対抗で行うものや、有志が参加するものなど、さまざまなアクティビティを通して自然・地域社会・国際的な課題に触れる機会が多く提供されていました。

スポーツ

月曜日から金曜日まで放課後 1 時間半ほどスポーツをする時間があります。

- **秋学期：Water Polo（水球）**

水球は初めて経験しましたが、コーチが指導してくださるので初心者でも十分楽しみながら上達することができました。僕はチームのキャプテンを任せられ、練習中や試合時にチームをまとめる役割をしました。他校との試合は学期中に 3 回ほどあり、遠征することもありました。

- **冬学期：Squash（スカッシュ）**

冬学期も初体験のスカッシュに挑戦しました。当初ラケットの握り方もわからず、チームの中で最下位に近い状況でしたが、友人に教えてもらい楽しみながら上達出来、学期終盤には 1 位の選手に勝てる程になりました。

- **春学期：Lacrosse（ラクロス）**

ラクロスは、アメリカの東海岸ではアメリカンフットボールやバスケットと並び、熱狂を集めるスポーツで、Eaglebrook School でも多くの生徒が熱心に取り組みレベルが高く、そんな仲間たちと切磋琢磨しながら、スキルを磨く事ができたのは本当に楽しい経験でした。

僕は日々の練習での努力が評価され、Greaser of the Day というシーズン中に数名しかもらえない賞をいただくことができました。また Starter(スタメン)にも選ばれ、試合で勝利した際の高揚感やチームメイト達との連帯感を強く感じる事もできました。

アクティビティ

- **Robotics 活動日：金土日**

Robotics では、ロボット競技大会に向けて、課題に合わせたロボットの設計・製作に取り組みました。機械製作、配線、CAD 設計、プログラミングまでを生徒自身が担当し、限られた時間の中で、ロボットの構造や動きを考えながら試行錯誤を重ねていく活動です。僕がリーダーを務めたチームは州大会に 2 回出場し、決勝まで進出して Finalist Alliance Captain Award を受賞することができました。僕は主に機械製作とプログラミングを担当し、試合ではフィールド内でロボットを操作するドライバーの一人も務めました。特に、自分が CAD で設計した Mecanum wheel を使ったインテイク機構が実際のロボットに採用され、大会で成果につながったことは、大きな達成感となり、ものづくりへの自信につながりました。

一方で、Robotics は技術力だけでなく、チーム運営の難しさも強く感じた活動でした。制作が進むにつれて、ロボット製作、プログラミング、テストなど、それぞれの担当が独自に作業を進める場面が増え、チーム全体の進捗や優先順位が見えにくくなるがありました。そこで、作業後に各担当が進捗や課題を共有する時間を設け、誰が何に取り組み、どこで困っているのかを可視化するようにしました。また、開発方針について意見が分かれた時には、個々の主張をそのままぶつけ合うのではなく、チームとして何を優先すべきかを確認しながら話し合うようにしました。

- **EBS Talks 春学期開催**

EBS Talks は、TED の Eaglebrook School 版で、年に 1 回、春学期に行われます。全校生徒の中から自主的にエントリーした生徒がスピーカーとして登壇し、自分が研究していることや問題意識を持っている事柄、伝えたい思いを、先生方や全校生徒に向けて発表します。

僕も自らエントリーし、EBS Talks にスピーカーとして登壇しました。僕は、慶應義塾の SDGs 会議に 3 年間参加しアジアの貧困問題について考えるようになったことがきっかけで、現在 2 年間取り組んでいるフィリピンでのボランティア活動について発表しました。今年は Eaglebrook School で、Sustainability Committee の先生や校長先生にプレゼンテーションを行い、許可をいただいた上で全校

生徒に寄付を呼びかけました。その結果、300点以上の寄付品が集まり、春休みに現地に届けることができました。

今後の派遣留学生へのアドバイス

塾内選考前にどのような準備をしていましたか。

- **絶対に行きたい！と思う揺るぎない意志**

出願で最も重要なのは、自分自身が「留学を実現したい！」と思う強い気持ちと「現地での生活を思い切り楽しみたい！」という気持ちです。留学中は、授業、寮生活、人間関係など思いどおりにならない場面にも直面します。その時に留学そのものを心から望み、困難も含めて楽しもうとする気持ちがあれば、自分自身の支えとなり、予想外の出来事も成長の機会として乗り越える事が出来ます。

- **出願準備を自己理解の機会に！**

志願書作成は、これまで自分が何に取り組み、今後何に挑戦したいのかを明確にできる貴重な機会だと思っています。慶應義塾の一貫教育は、受験がない為、勉強やスポーツに思い切り打ち込める素晴らしい環境です。しかし中学・高校・大学受験を経験する人と比べ、節目に自分の歩みや将来の方向性を考え直す機会が少ないのではないかと思います。僕自身、出願にあたり自己分析をし、これまでの歩みと今後の目標を整理し明確にできたことは、可否に関係なく、自分の進路や将来を考える上での重要な転機となり、志願書作成自体が僕自身にとって大きなプラスとなったと思っています。留学は、自分の世界と可能性を大きく広げてくれる機会です。少しでも挑戦したいという気持ちがあるなら、その思いを大切に、ぜひ一歩踏み出しチャレンジしてください！

渡航前に日本で学習しておいた方が良いことや、用意しておいた方が良いことがあれば教えてください。

- **目的を持って臨む**

1年間はあっという間です。特に2学期と3学期は日数的にも少なく、あっという間に過ぎてしまいます。事前にしっかりやりたい事を検討し、目的を持って臨むことをお勧めします。

- **世界の情勢、そして日本とアジアに目を向けておく**

渡航前から社会情勢に関心を持ち、日本で起きていることを自分の言葉で説明できるようにしておくことが大切です。実際に、日本について説明を求められる場面が多くありました。

- **日本での学校授業を大切に**

普通部の授業で学んでいたことが、Eaglebrook Schoolの授業での助けとなり、授業理解がスムーズに進んだことが多々ありました。まずは現在の学校での学びをしっかり行うことをおすすめします。例えば、Eaglebrook Schoolの地学のプレートテクトニクスや地震・岩石の種類などは、普通部で習っていた範囲だったので、理解がスムーズに進みました。数学も日本で履修済みの範囲を習うことがありました。

以上

